

事業報告書

1. 事業の状況

(1) 概況

当財団は、「医薬品の開発をはじめとする生命科学に関する諸分野の研究を奨励し、もって国民の健康と福祉の向上に寄与する」ことを目的として昭和60年2月19日に厚生大臣の認可を受けて設立し、平成22年1月19日に内閣総理大臣の認定を受けて同2月1日公益財団法人に移行した。

平成28年度は、基本財産として保有する大正製薬ホールディングス株式会社株式に対する配当金収入を活用し、わが国の企業をベースとする財団としては最大規模の事業を行った。

(イ) 研究助成、海外留学助成を引続き高水準で実施した。

(ロ) 研究業績褒賞を行った。

(ハ) 第9回特定研究助成金「生体を見る・操る新技術の開発」に係る中間報告会を下田で開催した。

(ニ) 組織委員会を開催し、第12回国際シンポジウムの準備を進めた。

(ホ) 第10回特定研究のテーマ検討会を開催し準備を進めた。

(ヘ) 定例刊行物である「研究報告集Vol.30 2016」、「一年のあゆみ平成27年度版」および「平成28年度上原賞受賞講演録」を作成した。

(2) 各種助成金

平成28年3月11日開催の理事会で決定した事業計画に基づいて、同年5月25日開催の理事会で「交付対象者選出に必要な事項」を決定し、6月10日より募集を行った。

応募申請は、9月2日に締切り、各選考委員が書面審査の上、11月2日及び11月25日に選考委員会を開催して選考を行った。

この選考結果を12月20日開催の理事会・評議員会で検討して、交付対象者ならびに交付金額を決定し、直ちに応募者に通知した。

採択者に対する助成金の支払いを、平成29年1月より開始した。

(イ) 第9回特定研究助成金

平成26年度の決定に基づき、「生体を見る・操る新技術の開発」を行う研究者19名に平成28年度分の助成金を交付した。

(1件当たりの助成金)

	平成26年度	27年度	28年度	助成金合計
特定研究助成A 助成件数6件	千円 5,000	千円 5,000	千円 5,000	千円 15,000
同 B 助成件数13件	〃 3,000	〃 3,000	〃 3,000	〃 9,000

(ロ) 研究助成金 (1件5,000千円)

90件の助成を決定した。

(ハ) 研究推進特別奨励金 (1件4,000千円)

10件の助成を決定した。

(ニ) 研究奨励金 (若手研究者対象1件2,000千円)

90件の助成を決定した。

(ホ) 海外留学助成金

本年度も、リサーチフェローシップとポストドクトラルフェローシップの2種目とし、合わせて120件採択した。その内8件を2年間助成とした。

(ヘ) 来日研究生助成金

10件の助成を決定した。

(ト) 国際シンポジウム開催助成金 (1件1,000千円以内)

わが国で開催される国際研究集会に29件の助成を決定した。

(3) 研究業績褒賞 (上原賞)

生命科学に関する研究で顕著な功績をあげ、引続き活躍中の研究者を主要学会、当財団役員・評議員・諮問委員および既上原賞受賞者に推薦をお願いした。13件の候補者のなかから2回の選考委員会での厳正、慎重な討議の結果、東京大学大学院薬学系研究科教授の一橋秀憲氏、京都大学大学院医学研究科教授の小川誠司氏と東京大学医科学研究所教授の宮野悟氏を受賞者に決定した (小川氏と宮野氏は共同受賞)。

(4) 研究会の開催とシンポジウムの準備

(イ) 第9回特定研究助成金に係る研究会 (中間報告会) の開催

平成29年6月の国際シンポジウムを展望し、これまでの研究の推進状況について各研究者が発表し、活発に討議を行った。

- ・研究会の日時 平成28年6月5日 (日) 14時20分～18時10分
6月6日 (月) 8時30分～12時00分

・場 所 下田セントラルホテル 会議室
静岡県下田市相玉133-1

・参加者 19名の代表研究者とその共同研究者47名および戸山芳昭
慶應義塾・常任理事 計67名

(ロ) 第12回国際シンポジウムの準備

平成29年6月12日から開始する国際シンポジウムの組織委員会において
招聘する外国人研究者の人選と今後の準備スケジュールについて協議し、
準備を進めた。

・会議の日時 平成28年6月5日(日) 14時~14時20分

・場 所 下田セントラルホテル 会議室

・参加者 戸山芳昭・委員長以下6名

(5) 第10回特定研究助成の実施について

第9回特定研究助成は平成28年度で終了するので、次期テーマについて検討委員会
で協議の結果、「脳一末梢連関による生体恒常性の維持とその破綻」を対象に実施
することが妥当である旨の答申を受け、平成29年度からこの研究を対象として第10
回特定研究助成を実施することとした。

(6) 刊行物の発行

(イ) 平成26年度の研究助成金および同奨励金受領者等よりweb入稿された
研究経過報告書を取りまとめ、「上原記念生命科学財団研究報告集Vol. 30
2016」を刊行した。

(ロ) 当財団の年報「平成27年度上原記念生命科学財団一年のあゆみ」を作成した。

(ハ) 「平成28年度上原賞受賞講演録」を作成し、贈呈式出席者に配付した。

(7) その他

海外で開催される国際研究集会に対する助成に関しては、所定の審査手続き
を経て、「第14回日米シンポジウム ドラッグデリバリーシステム」と「興奮
収縮連関に関するゴードン会議」にそれぞれ1万米ドルの助成(寄付)を行った。

助 成 金 の 内 訳

＜ 贈 呈 決 定 額 ＞

(金額単位：千円)

	助成金の名称	助成の対象者	1件当たりの助成金額	応募件数	助成件数	総助成額
定款第5条第1号 研究助成	第9回特定研究助成金	「生体を見る・操る新技術の開発」を行う研究者	(A) 15,000千円 (B) 9,000		6 13	} 207,000千円 〔 本年度 〕 69,000
	研究助成金	単独・共同研究等 いずれでも可、年齢不問	5,000	371	90	
	研究推進特別奨励金	平成26年4月以降に 独立した研究室又は チームを立ち上げた 教授(昭和46年4月1日 以降出生の者)	4,000	19	10	40,000
	研究奨励金	昭和54年4月1日以降 出生の者、但し6年 制学部出身者は昭和 52年4月1日以降出生 の者	2,000	230	90	180,000
同条第3号 派遣及び 招聘の助成	海外留学助成金 リサーチフェローシップ	年齢基準等研究奨励 金と同じ	4,000以内	297	82	259,300
	ポストドクトラル フェローシップ	昭和58年4月1日以降 出生の者で博士号取得 直後の無所得者	同上	83	38	141,200
	来日研究生助成金	わが国の大学院博士 課程に新たに入学する ために来日する研究者	奨学金月額 150	20	10	34,200 (支払は一部来期以降)
同条第4号 シンポジウムの助成	国際シンポジウム 開催助成金	わが国で開催される 国際研究集会	1,000以内	35	29	28,000

褒 賞 の 内 訳

	褒賞の名称	褒賞の対象	1件当たりの褒賞	被推薦件数	褒賞件数	副賞の総額
定款第5条第2号 研究業績褒賞	上原賞	顕著な功績をあげ 活躍中の研究者	正賞 金牌 副賞 20,000千円	13	2	40,000千円